AGC レポート
山岳地理クラブ会報

VOL　２８
2009 年 10 月号
発行 2009 年 9 月 30 日
日本山岳会　山岳地理クラブ
URL●www.jac.or.jp/doukoukai/

高校山岳部の現在
ー“雨” の洗礼を受けた夏季合宿に参加して

増山秀樹

若者の山離れが取り沙汰されて久しい　。富士登山ブームやトレイルランニング人気を別にして、純粋なアルピニズムを求めて山に入る若者はそれほど多くはない。少子化のあおりを受けた高校山岳部はかつての先鋭的な側面は影を潜め、競技やレクレーション志向にシフトしているようにも見受けられるのは私の思い過ごしだろうか。

私が顧問の一人を務める早稲田実業学校山岳部は今年で創部63年目を迎える伝統あるクラブである。春夏秋冬それぞれオールラウンドな活動をモットーとし、本会会員として海外に活躍の場を求めた卒業生もいる。2001年には早稲田鶴巻町から国分寺に移転し、山への接近度という面では有利になった。また、2002年からは女子生徒の受け入れを開始し、それまで男子一辺倒だった山岳部の様態も変化を見せつつある。ここ数年の活動内容を見てみると、奥多摩や中央沿線の山々はさることながら、夏季の南北アルプス縦走、冬期の八ヶ岳など、それなりの活動をしている。かつては槍ヶ岳～西穂高への縦走や、鋸岳～甲斐駒、黒戸尾根への縦走を行うなど、かなり先鋭的な側面を持っていた。

今年度の夏合宿は、顧問の他、海外登山経験を持つコーチを迎えたこともあり、8月10日～14日にかけて、槍ヶ岳～薬師岳に至る4泊5日の長期縦走を計画、実施した。本コースはとりわけ危険な箇所はないが、長期にわたる縦走のため、体力の維持や天候の急変への対応など、対処すべき問題は多く存在する。特に今年は梅雨明け後の天候が安定せず、途中でかなりの悪天候に見舞われることになった。初日は上高地から横尾までの問題のないルートだが、テントや食料など本格的な縦走に備えた重装備のザックが肩にのしかかる。途中猿の親子と遭遇するなど楽しいひとときを過ごしつつ初日の予定を終了。2日目は快晴。4時に横尾を出発し、槍沢をひたすらつめて殺生平へ。日差しが強く、雪渓も残っていたため照り返しも強い。あえぎながら何とか殺生平に到着。何人かは高山病の症状を訴える者もいた。

中学生は槍ヶ岳登頂が目的のため、軽装で山頂を往復する。中学1年生が皆山頂に立てたのは感激であった。3日目は高校生のみ4時に殺生を出発し、槍ヶ岳山頂往復を経て、西鎌尾根に入る。重荷での悪場の通過に緊張しつつ、11時に双六小屋へ到着。明日の荒天が予測されたため、一気に黒部五郎小舎まで行くことを決定。ややガスの出てきた山腹をたどりつつ、12時間半の行動で黒部五郎小舎に到着。長い一日であった。4日目は朝から降り出した雨の中、4時30分にキャンプサイトを出発。黒部五郎の登りにかかる。ガスの為視界はほとんどなく、肩に上りつめると寒冷前線による風雨が強まる。防寒着を着込んで出発。風速は30m、横殴りの雨が襲う中、黒部五郎を下り、縦走路を太郎平へ向かう。メンバーは元気で、それだけが救いだった。午後12時30分太郎平着。何とかテントを張り、落ち着くが、夕方から大雨となり、テントの下が川となってしまった。全員で大きな溝を作り、流れを変えて対処をする。「水」の怖さを思い知らされる。最終日は雨が上がり、3時30分にキャンプサイトを出発。5時30分、快晴の薬師岳山頂に立ち、縦走を締めくくった。その後折立に下山し、全員無事帰京した。

この5日間の縦走を経て、部員は多くの経験を積むことが出来た。特に早めの行動を心がけることや、チーム力の強化など、山岳部としての基礎的な生活態度を身につけるよい訓練になった。また、頭の先からつま先まで雨にたたかれた経験は、雨の怖さを知ることにもつながったと思う。昨今の登山ブームは、個人中心やガイド登山の隆盛などを引き起こし、チームワークを学ぶ機会が減っている。山岳部に入部する高校生や大学生も減少しているが、何とかこの流れを断ち切らず、本会会員の中核となる人材を育成していきたいと思っている。

（写真はイメージです。本文とは関係ありません　編集担当）

連載　ゆにーく　標識＆標石⑫　街区基準点（街区三角点と街区多角点）

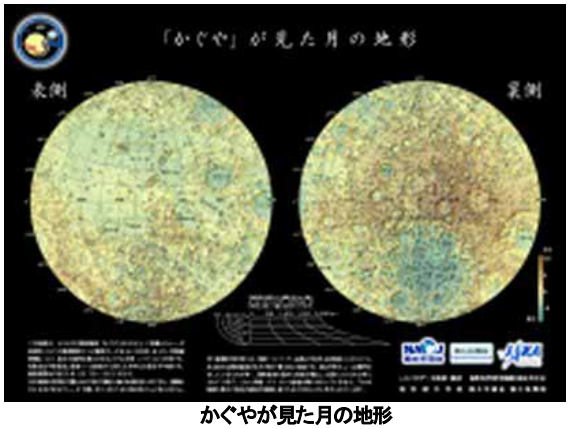
今回はこれまでとは逆に、数が多いことで「ゆにーく」であるものを紹介したい。

最近、街中でよく見かける「街区基準点」は、全国で 20 万点ほど設置されている。これらは、平成 16～18 年度に国土交通省が実施した都市再生街区基本調査により、人口集中地区（国勢調査により定まる、全国約 12,000km²）のうち、地籍調査が実施されていない約 10,000km²の地域に設置されたものである。直径 75mm の金属標が「街区三角点」（図左）で、点間距離が約 500m で公共基準点 2 級相当、直径 50mm の金属標が「街区多角点」（図中）で、点間距離が約 200m で公共基準点 3 級相当となっている。

ちなみに、同様によく見かける金属鋲（図右）は、同調査で設置された多角点の「節点」あるいは後続工程の街区点測量で設置した「補助点」であり、これらは公共基準点 4 級相当である。　（田中大和）

トピック

標高 10,750mの月の山　　近藤善則



かぐやが見た月の地形

つい最近「かぐや」が見た月の裏側の画像を目にすることがあり、少し月の山について思いめぐらせてみた。

この写真は国立天文台と宇宙開発機構（JAXA）が纏め、国土地理院が作成したもので WEB 上に公開されているものだが一般には画像データー量が大きすぎて印刷するにはかなりてこずる。私が見たものはA-0　サイズのかなり詳細な画像である。表側(左)と裏側(右)が並べてあり、図法は平射図法。経緯度線もある。月の裏側は地球上からは絶対見えないわけだが、月探索衛星「かぐや」により可能になり、地形図が完成したもので、初めて目にして気になったのは標高差にある。この地形図では標高が色分けされており画像をみただけでも明らかに裏側の方が標高差があることがわかる。右下に色分けの区分が表示されているが最高点が平均高度(0m)の＋10km、最低点が－9kmとなっている。つまり地球で言えば、高度 1 万メートル、深度 9 千メートルということになる。月の直径は地球の 1/3.7　地球に比べてはるかに凹凸があることになる。月には水がないとされているので、0 メートルは地球と定義が異なるが海や湖がたくさんあり、山も名前のついているものだけでも 30 座ほどあり、山脈もいままで知られていたアルプス山脈、ピレネー山脈を含めて 20 ほど名前がついている。

最高点は 10,750m　エベレストよりも高い山が裏側のクレーターの縁にあったのだ。やがて JAC でも月の未踏峰に遠征隊を送り出す日も近いのではないかと想像したくなるが、反面、宇宙の神秘が解明されていけばいくほど情緒が失われていく事を嘆く人も多いのではないだろうか。私もどちらかといえば、情緒面を優先する人間なんだと思うのだが・・・

（追記）この原稿を作成途中、**「月に水」印探査機が発見**という新聞記事が目に入ってきた。

24 日付英紙タイムズによると、インドの無人月探査機は「月面に大量の水が存在する証拠」を発見した。探査にかかわった米航空宇宙局(NASA)が同日発表する　というものだ（9/25 サンケイ）

山岳地理の範疇に　地球上以外の地域にも目を向けていく必要がありそうだ。

図書・資料の紹介

◆「地図だけが知っている　日本 100 年の変貌」　竹内正浩　著　小学館 101 新書　¥720-

旧版と現在の地形図を比較しながら、、全都道府県から一つずつテーマをとりあげ、地域の変遷と変化を追っている。例えば　日本第二の湖はどこに消えた？（秋田県）、農村に忽然と出現した未来都市（茨城県）、静かな集落がアジア最大の米軍基地に（沖縄県）等々、興味深い内容で地図を読むのが楽しくなる

EVENT

◆デジタルマップフェア 2009　10 月 2 日(金)～3 日（土）　場所：東京国際フォーラム展示ホール B（有楽町）　無料
今回から場所を変え生まれ変わるとの案内。最新の GIS を体感してみてください。　URL　http//mapfair.jp/

◆にいがた狼煙プロジェクト　10 月 17 日(土)　場所：新潟県の山城跡　100　箇所以上で狼煙を上げるイベントです。AGC が企画中のレトロな山岳通信に近いものか？注目です。詳細は下記 HP をご覧ください。（日本トレッキング協会より）　URL　http://www.g-sigma.co.jp/noroshi/

例会の議事録

9月定例会記録

2009年9月2日(水)　19:00～20:30　於JAC集会室 104-B

出席者14名（北野、近藤、遠山、高橋、鶴田(泰)、関、田中、森(静)、加藤、長谷川、川口、森合、平野、特別参加：西野(国土地理院)　順不同

内容：①山行報告　1）トムラウシ山登山　初日は旭岳に登ったが強風で 9 合目半までしか登れなかった。ケーブルが止まる前に急いで下山した。翌2日目は天人峡温泉よりトムラウシ山へ　7　時間かけて登った(川口）　2）塩見岳登山　山小屋のエコトイレが良かった(長谷川）　3）空木岳登山　道の整備不良であった(北野）　4）玉川上水の分水界を歩く。また 9 月 19 日(土)に狭山丘陵付近を歩く予定。興味のある方は同行を(北野）　②地図寄託の件：本日常務理事会に出席し旧版地図を国土地理院(以下地理院)へ寄託することについて打ち合わせ。日本山岳会から地理院あて趣意書を提出後、地理院から資料の受領書を提出する。地理院には陸地測量部時代の地図が不足しており、当地図保存状態が良いので院長より日本山岳会宛感謝状を贈る予定。受領後数値化に向け作業に入る。（田中）　③須坂基線　昨年の続きを 10 月 24-25 日に行う。参加申込みについて。（近藤）、また関氏より基線図等の詳細資料の紹介があった。④映画「剣岳点の記」の時代考証について（関）、硫黄鳥島 1/2.5 万図では最後の測量をしたのが関氏である。（関）　是非記録に残して欲しい。　⑤次回は点の記、基線の勉強会を行う。終了後「什番館」にて懇親会（14　名）　（記録：平野）

お 知 ら せ

◆AGC レポート等の CD 化　遠山さんがいままでの AGC レポートや関連資料の　CD　を製作し、会員に配布しています。希望者は直接、遠山さん宛に申込みください

◆次回の例会

日時　**2009年10月7日（水）**　18:30 から
於：山岳会　ルーム
テーマ：　基線・点の記について。山行計画（須坂基線）ほか

◆編集後記◆

＞今号は前回の特集「水」に関連した内容の続編ともいえる内容でした。「高校山岳部の現在」の雨の洗礼、「月の地形図」の水について、など・・・。今後もユニークな記事をお待ちしています。

AGC レポート　vol-28　2009 年 9 月 30 日発行
発行：日本山岳会・山岳地理クラブ（代表・北野忠彦）
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4 日本山岳会　気付
TEL　03-3261-4433　　FAX　03-3261-4441
編集担当：近藤　　E-mail：hikarikon@nifty.com